

5月18 - 22日週のドル円レビュー

May, 25, 2009

ソブリン格下げ懸念でドル軟調

High : 96.71 円 Low : 93.85 円
 Close : 94.80 円

週初は米株式が堅調に推移し、リスク回避的なドル買戻しとなったが、ドル円はレンジ相場を抜けきれない展開だった。しかし、後半は英国格付け見直し引き下げ、そして米国債格下げへの思惑が高まったことなどで米市場は株安、ドル安、債券安となり、トリプル安の様相を呈した。また、欧州高官の「ユーロ高を懸念せず」との発言でユーロ買い優勢に。ドル円は一時93円後半まで下落した。米英とも3連休前でも、ドル安センチメントが維持された。

5/18 (月) 96.32 円

インドの総選挙を受けて、大幅上昇したインド株(センセックス指数 17.3% 上昇)に続いて欧州株も反発したことから、先週買われた円とドルの売りが目立ち、ドル円は96円台まで反発、杉本財務次官の円高を牽制する発言も円売りのきっかけとなった。

5/19 (火) 95.98 円

欧州株式の堅調な動きを受け、ドル円は一時96.71円まで上昇後、クロス円の売りに押され96.16円まで下落。予想を下回った米住宅着工件数が重石となり、米株は小幅反落となり、ドル円も一時95.91円。

5/20 (水) 94.90 円

欧州時間、ドル円はショートカバーで96円前半まで反発。しかしFRB経済見通しが下方修正されたことが嫌気され、95円の節目を抜け94.69円まで下落した。

5/21 (木) 94.42 円

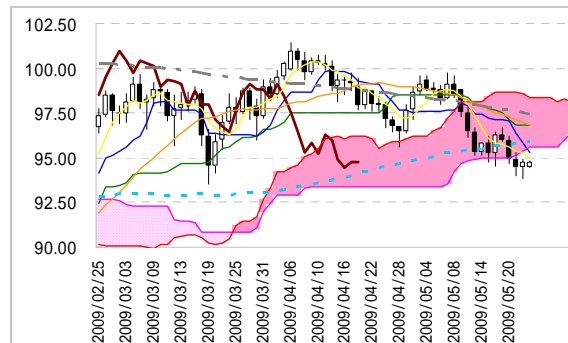
S&Pが英国の格付けAAA見通しをネガティブへ引き下げたことをきっかけに、ドル円は94.38円まで下落したものの、売りが続かず95円前半まで反発。しかし、NY勢参入後に欧米株が大幅下落するなか、ドル円は93.96円と一時94円を割り込み安値を更新した。

5/22 (金) 94.80 円

ドル円は次第に上値が重くなり、93円後半まで下落。この近辺ではアジア勢の買いで下げ渋りって抜け切れず、94円台に反発した。しかし3連休前でもドル安のセンチメントに変わりりはなかった。

	High	Low
5/18 (月)	96.46 円	94.55 円
5/19 (火)	96.71 円	95.91 円
5/20 (水)	96.22 円	94.69 円
5/21 (木)	95.27 円	93.96 円
5/22 (金)	94.92 円	93.85 円

ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

- 96.80 (日足一目均衡表・基準線)
- 95.58 (日足一目均衡表・雲の下限)
- = 先週末のNYクローズ 94.80 円 =
- 93.55 (3月19日安値)

米国の重要指標結果

- 5/18 (月) [結果] (前回)
- 5月NAHB住宅市場指数 [16] (14)
- 5/19 (火) [結果] (前回)
- 4月住宅着工件数 [45.8万件] (52.5万件)
- 4月建設許可件数 [49.4万件] (51.1万件)
- 5/20 (水) [結果] (前回)
- 連邦公開市場委員会(FOMC)議事録
- 更なる米国債買い入れの必要性を議論。米景気後退がより深まる可能性を指摘。
- 5/21 (木) [結果] (前回)
- 新規失業保険申請件数 [63.1万件] (64.3万件)
- 4月景気先行指数 [+1.0%] (-0.2%)
- 5月フィラデルフィア連銀製造業指数[-22.6] (-24.4)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 93.00 - 96.00 円

今週も格下げ懸念が続くと、ドル安センチメントが継続されるが、住宅販売、耐久財受注など米経済指標にも注目。また、GMの破産法適用回避のための申請期限6月1日を控えていることなども懸念材料である。これら経済指標の下振れと、GM破産法を巡る結果次第で、ドル円は下値を試す可能性もあるが、ユーロの行方も気になる。今週発表のユーロ圏HICPとM3などの指標次第で、ユーロ売りとなる可能性も秘めており、ドル円もユーロ円の展開次第とみる。